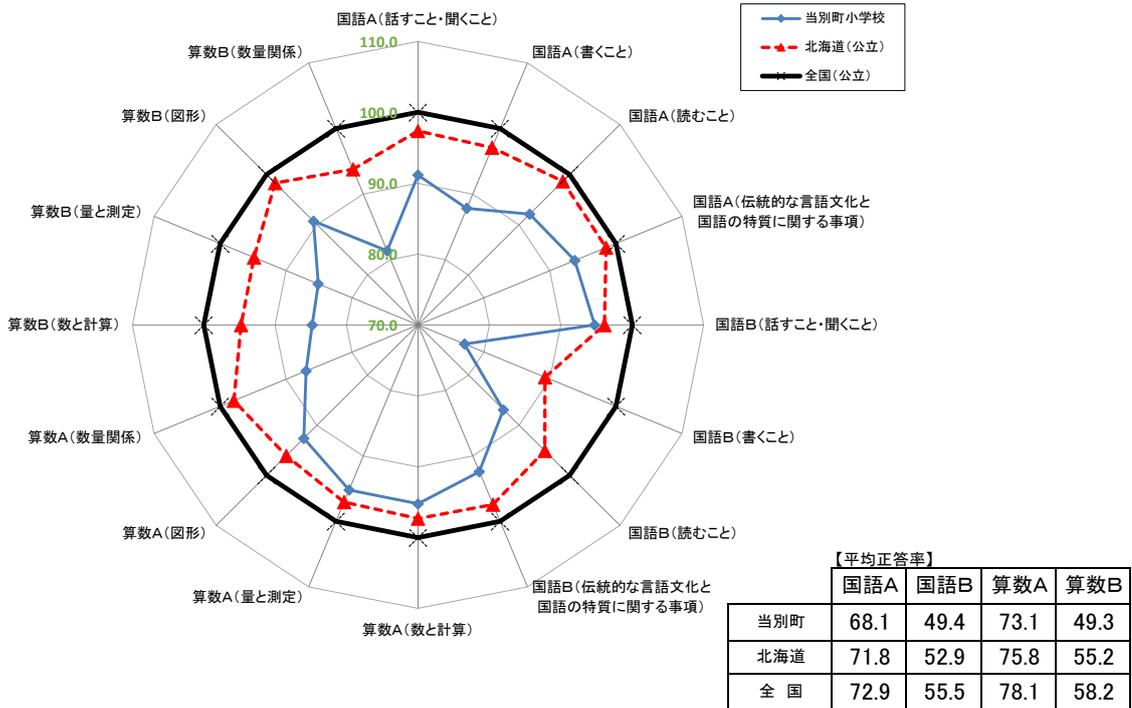


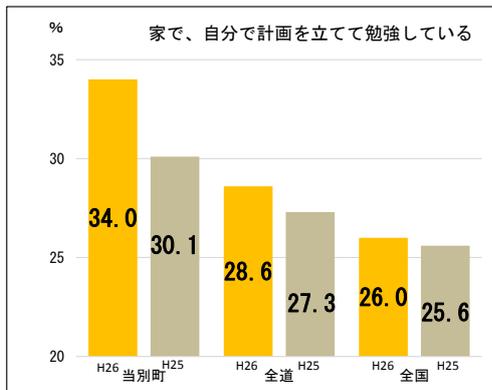
■ 当別町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:3校、児童数:141名)

【教科全体の状況】

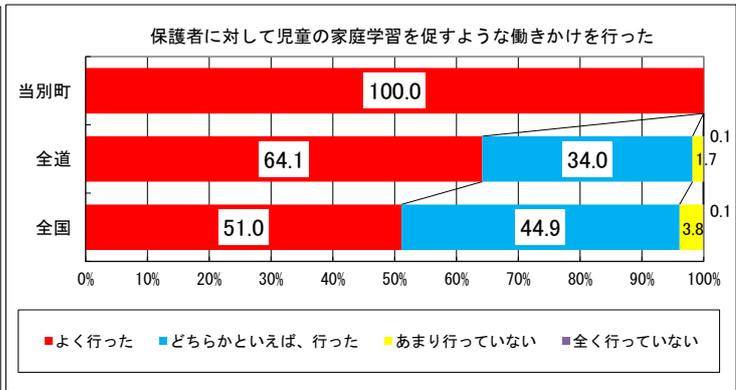
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Bでは「話すこと・聞くこと」で全道とほぼ同様である。 ○ 算数Aでは「数と計算」「量と測定」などで基礎・基本の定着が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校で、家庭における学習習慣の定着について、保護者への啓発を活発に行った。その結果、家庭学習に計画的に取り組む児童が増えた。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う児童の割合が全国より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科・領域によっては、学習の成果が見られるが、全体的に学力の定着が不足している。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計算問題などの反復練習をおこなった学校の割合が全国より高い。 	

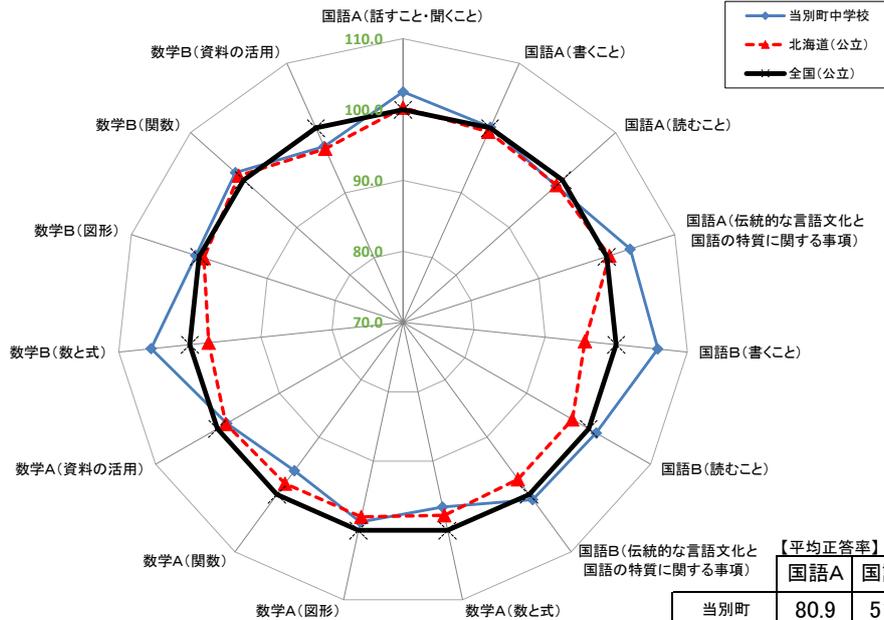
【当別町の学力向上策】◎は、これまでの取組 ☆は、今後の取組

◎ 退職教員や巡回指導教員等を活用したTTによる指導の充実
◎ 学生ボランティアを活用した長期休業中の学習サポートの充実
◎ 保護者に対する家庭学習の習慣化、生活習慣の改善に向けた指導
☆ 土曜学習や放課後学習の検討
☆ 授業改善のためICT機器の活用、充実の検討
☆ 小・中9年間を見通したカリキュラムの検討
☆ 下位層の引き上げに重点をおいた施策の充実

■ 当別町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:3校、生徒数:165名)

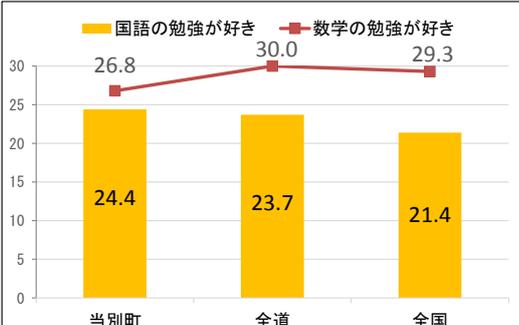
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

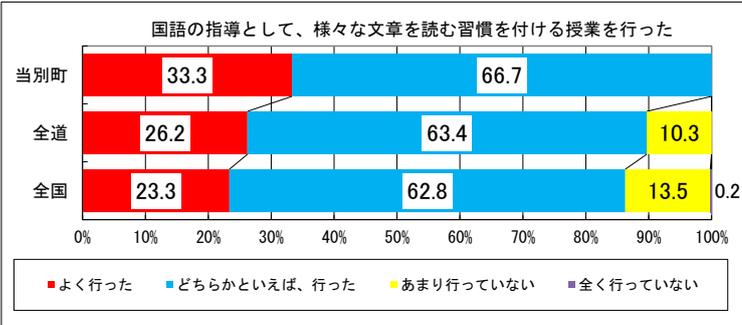


	【平均正答率】			
	国語A	国語B	数学A	数学B
当別町	80.9	51.6	65.6	60.7
北海道	79.4	49.9	66.0	59.4
全国	79.4	51.0	67.4	59.8

【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、国語Bでは全ての領域で全国を上回っている。 ○ 数学Bでは「資料の活用」を除く領域で全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校で、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったことにより、国語の勉強が好きな生徒が多くなり、読解力など国語の力がバランスよく育まれていると考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家で、学校の授業の復習をしている生徒の割合が全国より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ そのことが、他の教科(数学B:活用)の成果につながっていると考えられる。
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 漢字・語句などの基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行った学校の割合が全国より高い。 	

【当別町の学力向上策】 ◎は、これまでの取組 ☆は、今後の取組

- ◎ 退職教員や巡回指導教員等を活用したTTによる指導の充実
- ◎ 学生ボランティアを活用した長期休業中の学習サポートの充実
- ◎ 保護者に対する家庭学習の習慣化、生活習慣の改善に向けた指導
- ☆ 土曜学習や放課後学習の検討
- ☆ 授業改善のためICT機器の活用、充実の検討
- ☆ 小中9年間を見通したカリキュラムの検討
- ☆ 下位層の引き上げに重点をおいた施策の充実